

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

### 事業名 元気な美濃茶産地づくり推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 野菜果樹特産係 電話番号：058-272-1111 (内4120)

E-mail: c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 244 千円 (前年度予算額: 244 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	244	0	0	0	0	0	0	0	244
要求額	244	0	0	0	0	0	0	0	244
決定額	244	0	0	0	0	0	0	0	244

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・高齢化や後継者不足に伴う茶園の管理不足等により、生産量の減少や品質低下が見られる。
- ・茶価の低迷により、生産者の経営が悪化し、生産意欲も減退している。
- ・県内の荒茶加工施設は小規模で老朽化したものが多い。
- ・本県の茶業振興に資することを目的として、令和3年3月に「岐阜県茶業及び茶の文化の振興に関する計画」を策定した。

### (2) 事業内容

- ・優良な茶園の継承に向けて、茶園台帳の整備を推進する。
- ・荒茶の生産の機能を維持するため、茶工場の統合・再編を推進する。
- ・平坦地や中山間地域の特性に合う茶生産の拡大により、産地の維持拡大を進め、県茶品評会への出品による技術向上を図る。

### (3) 県負担・補助率の考え方

「ぎふ農業・農村基本計画」にも位置づけた茶の生産振興について、県が負担し推進することは妥当。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	56	・ 事業推進に係る業務旅費
需用費	75	・ 事業推進に係る消耗品費
役員費	13	・ 事業推進に係る通信運搬費
負担金	100	・ 関西茶業振興大会負担金
合計	244	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

- ・ 「ぎふ農業・農村基本計画」
- ・ 「岐阜県茶業及びお茶の文化の振興に関する計画」

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

地域の特性を活かした茶の生産を進めるとともに、優良茶園の管理と茶工場の再編統合を進め、茶産地の維持発展を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	
					達成率	
① 茶園管理台帳を備えた市町村数	1	1	1	2	4	25%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質茶生産に係る研修会や各種栽培資材等実証試験などを行い、優良な美濃茶生産を推進した。</li> <li>・関西圏茶関係会議に出席し、茶業情勢に係る情報収集や他県等との連携を進めた。</li> <li>・関西茶品評会で上位入賞する等、生産者の茶生産技術の向上が図られた。</li> </ul>
	指標① 目標：2 実績：1 達成率：50 %
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質茶生産に係る研修会や各種栽培資材等実証試験などを行い、優良な美濃茶生産を推進した。</li> <li>・関西圏茶関係会議に出席し、茶業情勢に係る情報収集や他県等との連携を進めた。</li> <li>・関西茶品評会で上位入賞する等、生産者の茶生産技術の向上が図られた。</li> </ul>
	指標① 目標：2 実績：1 達成率：50 %
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質茶生産に係る研修会や各種栽培資材等実証試験などを行い、優良な美濃茶生産を推進した。</li> <li>・関西圏茶関係会議に出席し、茶業情勢に係る情報収集や他県等との連携を進めた。</li> <li>・関西茶品評会で上位入賞する等、生産者の茶生産技術の向上が図られた。</li> </ul>
	指標① 目標：2 実績：1 達成率：50 %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<b>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b> 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	担い手の高齢化、加工施設の老朽化等により、生産量確保の問題が大きく、産地存続に向け、取組の必要性は高い。
<b>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b> 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	関係者での問題意識は共有できており、今後、生産者段階での検討を進めるとともに、課題解決に向けた活動の実践が必要。
<b>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b> 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	岐阜県園芸特産振興会茶部会、日本茶インストラクター協会等との連携を密にすることにより、茶生産・消費拡大活動の効率性の向上を図っていく。

### (今後の課題)

<b>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> 単価向上に向け、緑茶の消費拡大を図る。また、茶園台帳の作成を推進し、遊休茶園の共同管理や作業受委託により、生産量の維持を図る必要がある。
--

### (次年度の方向性)

<b>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b> 県策定の「岐阜県茶業及びお茶の文化の振興に関する計画」に基づき、茶工場の再編・統合を推進する。
--